


1 作物

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 麦の栽培管理</p>	<p>(今月の作業管理のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○麦の栽培管理 ○水稻の育苗準備 <p>1 か月予報（1月18日高松地方気象台発表）では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並の見込みである。</p> <p>ア 土入れ、麦踏み</p> <p>この時期の土入れと麦踏みは、無効分げつの抑制や倒伏防止などの効果がある。11月上旬～中旬には種したほ場では2月中旬頃に茎立ち期となるので、それまでに土入れや麦踏みを完了する。</p> <p>土入れは、跳ね上げロータ付き管理機等を用いて土を跳ね上げる（写真1）。排水溝の補修効果による湿害防止対策にもなるため積極的に実施する。</p> <p>麦踏みは、鎮圧ローラ等で行う（写真2）。ただし、土壌が湿った状態で踏むと、土が固くしまり過ぎて、根の生育が不良となるため土壌の乾燥を待ってから行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 土入れ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2 麦踏み</p> </div> </div> <p>イ 雑草防除</p> <p>気温が上昇すると雑草が繁茂し始めるので、雑草の葉齢が若いうちに、占有草種に効果のある除草剤を散布する。</p> <p>複数の草種が発生しているほ場では、一年生広葉雑草とイネ科雑草に効果があるハーモニー剤が比較的有効である。ハーモニー75DF水和剤では、スズメノテッポウは5葉期まで、カズノコグサは3葉期までが散布適期で、時期を逸さないように散布する。</p> <p>広葉雑草が発生した時は、広葉雑草が2～4葉期で麦類の収穫45日前までにエコパートフロアブルを散布する。</p> <p>ウ 穂肥、追肥</p> <p>出穂期は、11月上旬播きのハルヒメボシ、チクゴイズミでは3月下旬、シロガネコムギでは3月中旬～下旬である（表1）。</p>

項 目	作 業 内 容																																															
<p>(2) 水稻の育苗準備</p>	<p>この場合、穂肥の施用時期は、出穂前 30 日の 2 月中旬～下旬頃となる。11 月中旬以降のは種では、いずれの品種も出穂が 4 月上旬以降であり、穂肥は 3 月に入ってから行う。出穂前 30 日の幼穂長は 5 mm 程度であり、幼穂長を目安に判断することができる。出穂時期は今後の気温が低く推移すると、出穂時期が予測よりも遅くなる場合があるため、今後の気象動向や幼穂長を参考に穂肥施用時期を決定する。</p> <p>穂肥量は、NK 化成で 10 a 当たり窒素成分 3 kg を基準とするが、中間追肥量や生育状況及び葉色により加減する。</p> <p>なお、12 月は種のは場では、中間追肥として 2 月中旬までに窒素成分で 10 a 当たり 2 kg を追肥する。土入れ作業と併用すると効果的である。</p>																																															
	<p>表 1 麦の穂肥時期予測（1 月 22 日予測、松山）</p> <table border="1" data-bbox="480 831 1385 1182"> <thead> <tr> <th rowspan="2">播種期</th> <th colspan="2">ハルヒメボシ</th> <th colspan="2">チクゴイズミ</th> <th colspan="2">シロガネコムギ</th> </tr> <tr> <th>出穂期</th> <th>穂肥時期 (-30 日)</th> <th>出穂期</th> <th>穂肥時期 (-30 日)</th> <th>出穂期</th> <th>穂肥時期 (-30 日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11/1</td> <td>3/26</td> <td>2/25</td> <td>3/18</td> <td>2/17</td> <td>3/13</td> <td>2/12</td> </tr> <tr> <td>11/10</td> <td>3/29</td> <td>2/28</td> <td>3/30</td> <td>2/29</td> <td>3/26</td> <td>2/25</td> </tr> <tr> <td>11/20</td> <td>4/3</td> <td>3/4</td> <td>4/4</td> <td>3/5</td> <td>4/3</td> <td>3/4</td> </tr> <tr> <td>12/1</td> <td>4/7</td> <td>3/8</td> <td>4/9</td> <td>3/10</td> <td>4/8</td> <td>3/9</td> </tr> <tr> <td>12/10</td> <td>4/9</td> <td>3/10</td> <td>4/12</td> <td>3/15</td> <td>4/12</td> <td>3/13</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ハルヒメボシの出穂予測日は出穂予測プログラム（農林水産研究所）により算出。チクゴイズミ、シロガネコムギの出穂予測日は麦の発育ステージ予測（西日本農業研究センター）を参照。</p> <p>ア 用土 水稻の育苗では育苗用土の pH 調整が重要である。育苗時のトラブルは用土に起因することが多いため、次の点に注意しながら準備を行う。</p> <p>用土は無病で、通気性や肥料持ちが良く pH の低い壤土や砂壤土が望ましいことから、山土や粒状培土を用いる。</p> <p>用土量の目安は 10 a 当たりの苗箱数を 18 枚とすると、山土は床土と覆土で 70～90 ℓ、粒状培土は 40～45 kg 程度となる。</p> <p>好適 pH は 4.5～5.5 で、pH が高いと苗立枯病の多発要因となるため、硫黄華等で矯正する。100 kg の土の pH を 1 下げる硫黄華の量は壤土で 80 g、砂壤土で 60 g で、pH の矯正には約 1 か月を要するため早めに調整しておく。なお、pH が低すぎる場合はもみ殻くん炭等で矯正する。</p> <p>イ 種子更新 自家採種した種子を数年使用すると、混種や交配及び変異により、品種本来の特性が発揮できなくなり品質や収量の低下を招くため、3 年に 1 度は必ず種子を更新する。</p>	播種期	ハルヒメボシ		チクゴイズミ		シロガネコムギ		出穂期	穂肥時期 (-30 日)	出穂期	穂肥時期 (-30 日)	出穂期	穂肥時期 (-30 日)	11/1	3/26	2/25	3/18	2/17	3/13	2/12	11/10	3/29	2/28	3/30	2/29	3/26	2/25	11/20	4/3	3/4	4/4	3/5	4/3	3/4	12/1	4/7	3/8	4/9	3/10	4/8	3/9	12/10	4/9	3/10	4/12	3/15	4/12
播種期	ハルヒメボシ		チクゴイズミ		シロガネコムギ																																											
	出穂期	穂肥時期 (-30 日)	出穂期	穂肥時期 (-30 日)	出穂期	穂肥時期 (-30 日)																																										
11/1	3/26	2/25	3/18	2/17	3/13	2/12																																										
11/10	3/29	2/28	3/30	2/29	3/26	2/25																																										
11/20	4/3	3/4	4/4	3/5	4/3	3/4																																										
12/1	4/7	3/8	4/9	3/10	4/8	3/9																																										
12/10	4/9	3/10	4/12	3/15	4/12	3/13																																										

(作成 農林水産研究所)